

## 東京湾再生に向けた海域環境対策について

国土交通省港湾局は、東京湾再生に向けて、以下のような総合的な海域環境対策を推進しているところである。

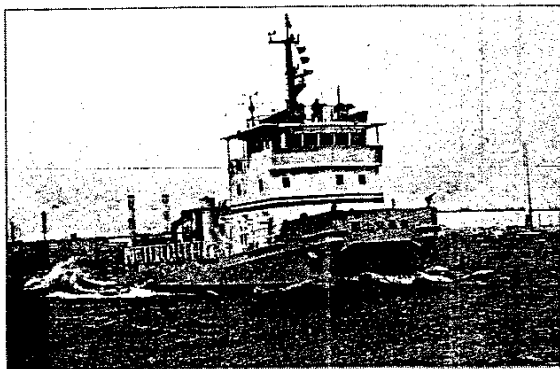
### 1. 浮遊ごみ・油の回収の実施

関東地方整備局京浜港湾工事事務所の浮遊ごみ・油回収船「べいくりん」により、港湾区域外の一般海域(東京湾850km<sup>2</sup>)について、浮遊ごみ・油の回収業務を日常業務として、油流出事故発生時は、油回収業務を実施している。なお、港湾区域内については、各港湾管理者が浮遊ごみ等の回収を実施している。

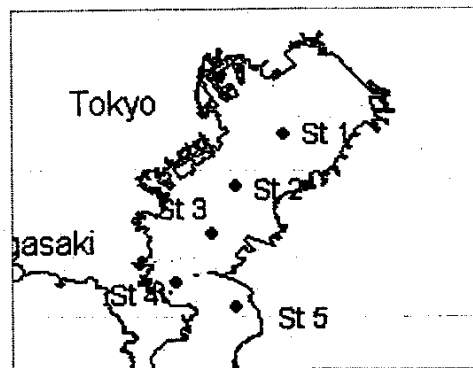
### 2. 水質監視強化などのモニタリング調査の実施

上記の浮遊ごみ回収船等を活用して、昭和52年より湾口から湾奥まで、公共用水域水質調査地点がカバーしていない湾の中央部分を中心に、5地点で月1回の水質調査(塩素量、油分、DO、濁度、CODなど)を実施している。また、東京湾口航路海域環境調査等において、湾内の底質調査の充実を図っていく。

今後、「べいくりん」に自動水質測定装置を設置し、水質環境調査機能の強化を図るとともに、東京湾の各管理者や整備局が取得している環境データの統合化、環境情報ネットワークの構築を行い、そのシステムを管理する「東京湾環境情報センター(仮称)」を設立し、市民への幅広い情報提供を行う予定である。



浮遊ごみ油回収船「べいくりん」

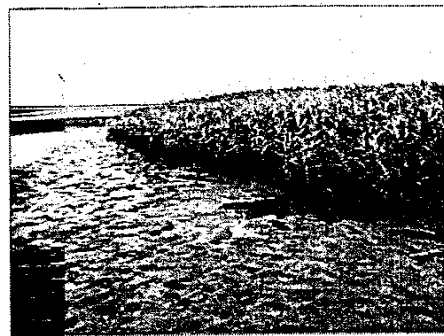
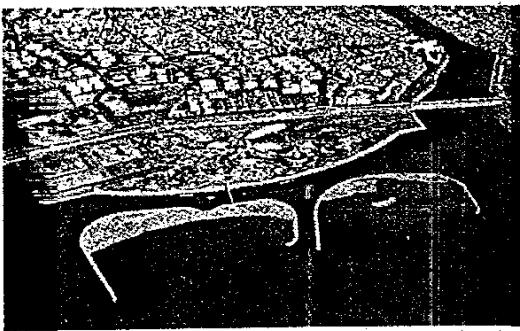


水質調査ポイント

### 3. 汚泥浚渫、干潟・浅場の保全・再生・創造の推進

公害防止計画に基づき、東京湾奥部を中心に底質汚濁が進んでいる海域において、汚泥浚渫を行うとともに、底質からの栄養塩等の溶出を抑制するため、覆砂を実施している。また自然の浄化機能を活用して、海域環境の改善を図り、良好な海域環境を創造することを目的として干潟、藻場、浅場の保全・再生・創造を推進している。

今後、2. の調査及び4. の研究の成果を取り入れつつ、干潟・浅場等の自然浄化機能を活かし、湾内の潮流や物質循環等を考慮した干潟ネットワークの形成等、具体的な環境改善方策を検討する。

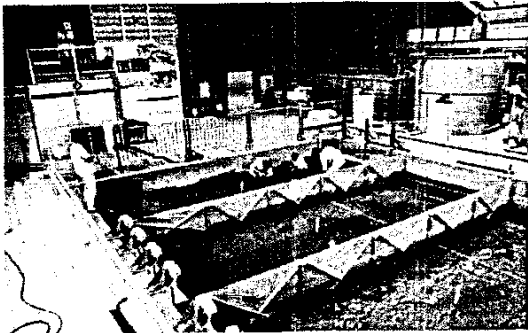


葛西海浜公園の東なぎさ

### 4. 東京湾の水循環、干潟生態系等の研究の推進

横須賀市久里浜の独立行政法人港湾空港技術研究所等において、東京湾の環境特性を把握し、そのモデル化の研究を行ってきた。近年実用化された海洋短波レーダ等により、詳細な湾内の物質循環など環境特性の観測体制の強化を図り、さらに高精度なモデルの開発を推進している。

また、世界最大規模の干潟実験水槽を用いて、水槽内に生息している生物や炭素、窒素、磷などの物質循環の調査研究や現存する干潟の現地観測を行い、その成果を干潟の保全・再生等に活用している。



干潟実験水槽

